

日本哲学史研究

第 6 号

過去への眼差し

——『硝子戸の中』の頃の夏目漱石——

伊藤

徹……………一

翻訳と近代日本哲学の接点……………上原麻有子……………二九

下村寅太郎の科学的認識論

——表現作用としての「実験的認識」について——

……………城阪真治……………五四

中期西田哲学における質料概念の意義……………日高明……………七八

西田における形の生命論……………濱太郎……………一〇九

2009年10月

京都大学大学院文学研究科
日本哲学史研究室紀要

執筆 者

伊藤 徹

京都工芸纖維大学教授

上原麻有子

明星大学准教授

城阪 真治

京都大学大学院文学研究科博士課程在学

日高 明

京都大学大学院文学研究科博士課程在学

濱 太郎

京都大学大学院文学研究科修士課程修了

日本哲学史研究 第六号

二〇〇九年一〇月一日印刷
二〇〇九年一〇月五日発行

発行者

京都大学大学院文学研究科

日本哲学史研究室

京都市左京区吉田本町

印刷所

藤原製本株式会社

京都市西京区牛ヶ瀬新田湫町六

日本哲学史研究

バックナンバー目次

第一号

- 藤田正勝「和辻哲郎「風土」論の可能性と問題性」
伊藤徹「幻視された「自己」」
ブレット・デービス「退歩と邂逅——西洋哲学から思索的対話へ——」
杉本耕一「西田哲学の「転回」と「歴史哲学」の成立」

第二号

- 平田俊博「日本語の七層と現象学的優位——日本語で哲学する——（前）」
古東哲明「臨生する精神——日本人の他界観——」
宮野真生子「美的生活の可能性と限界——柳宗悦「第三の道」とは何か——」
藤田正勝「西田哲学と歴史・国家の問題」

第三号

- 片柳榮一「アウグスティヌスと西田幾多郎」
林鎮国「西谷啓治——空と歴史的意識をめぐって——」
岡田勝明「日本思想における二重言語的空間——西田幾多郎の場合——」
ステフェン・デル「真の自己の否定性
——上田閑照の「自己ならざる自己」の現象学——」

第四号

- 清水正之「哲学と日本思想史研究
——和辻哲郎の解釈学と現象学のあいだ——」
藤田正勝「西田幾多郎の国家論」
杉本耕一「歴史的世界における制作の立場——後期西田哲学の経験的基盤——」
ジェラルド・クリントン・ゴダール「コケムシから哲学まで
——近代日本の「進化論・生物学の哲学」の先駆者としての丘浅次郎——」
《書評》高坂史朗、藤田正勝著『西田幾多郎——生きることと哲学』

第五号

- 岡田安弘「西谷啓治における「科学と宗教」の現代的意義
——生命科学の危機的な諸問題を前にして——」
黄文宏「西田幾多郎の宗教的世界の論理
——新儒家の宗教観との比較を兼ねて——」
シルヴァン・イザク「西谷における自他関係の問題」
守津隆「西田哲学批判としての「種の論理」の意義」
ダニエラ・ヴァルトマン「「絶対無」としての「絶対的生」とは何か
——ミシェル・アンリと仏教あるいは田辺元との対話——」

STUDIES
IN
JAPANESE PHILOSOPHY

NIHON TETSUGAKUSHI KENKYU

Vol. 6

October, 2009

*A Look into the Past: Natsume Sōseki at the time of Inside My
Glass Doors* · · · · · ITŌ Tōru

*On the Convergence of Translation and Philosophy in Modern
Japan* · · · · · UEHARA Mayuko

*The Scientific Epistemology of Shimomura Toratarō: 'Experi-
mental Knowledge' as Expressive Action*
· · · · · SHIROSAKA Shinji

*On the Conception of Matter in Nishida's Middle Period Phi-
losophy* · · · · · HIDAKA Akira

The Morphological Aspect of Nishida's Theory of Life · · · · ·
· · · · · HAMA Tarō

DEPARTMENT OF JAPANESE PHILOSOPHY
GRADUATE SCHOOL OF LETTERS
KYOTO UNIVERSITY

Kyoto, Japan